

工業部会通信

(発行)
相模原商工会議所工業部会

(編集)
かながわ経済新聞社
代表：千葉龍太
〒252-0239
相模原市中央区中央3-12-3
TEL：042 (851) 2021
FAX：042 (851) 3532

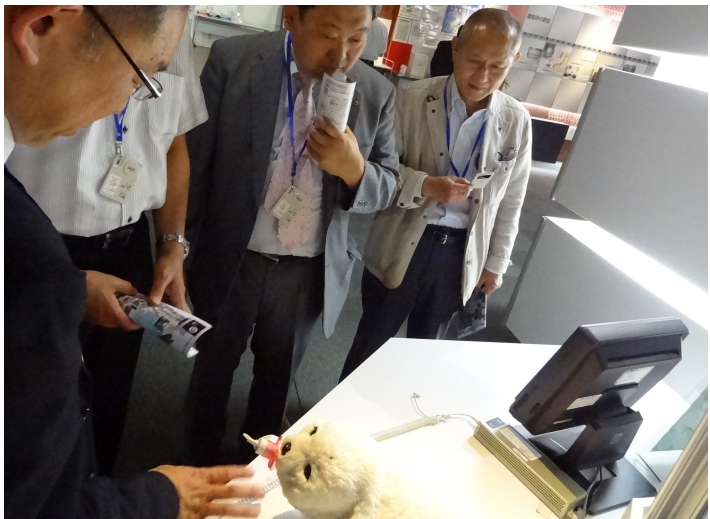
プリントしてご自由にお読み下さい。

工業部会TRYプロ

最先端ロボ技術視察 「HAL」の操作体験も

相模原商工会議所・工業部会TRYプロジェクト(杉本祥一委員長・ハイスロボット社長)は5月20日、ロボット技術の視察会を開いた。「ロボットの街」で知られる茨城・つくば市を訪問。「サイバードesignスタジオ」や「サイエンス・スクエアつくば」を見学した。神奈川県が進める「さがみロボット産業特区」で、相模原市内でもロボットビジネスに関心が高まるなか、市内工業人が参加。現地で最新技術に触れた。

会員ら18人参加



癒やし効果のあるメンタルロボット「パロ」

県が進める「さがみロボット産業特区」は相模原など県央や湘南地域の12市町がエリア。

県は特区制度を活用し、同地域で生活支援ロボットの実用化を進めるとともに、関連産業の集積を進めていく。

県の構想では、「さがみロボット産業特区」を、地域別に3つの実証プロジェクトで分類。相模原エリアは被災者の捜索や救助を行う「災害対応ロボット」の実証実験を行う。厚木市などの県央エリアは、身体装着ロボットなど介護・医療分野に特化したロボット。藤沢や平塚市などの湘南エリアは高齢者見守りシステムや移動支援ロボットを担当する。

県によると、JAXA・宇宙科学研究所がある相模原エリアは、厳しい環境にも耐えられる人工衛星の部品などに関わっている企業が多いという。「災害対応ロボット」でも同じような性能が求められるとしており、同分野での実証実験を決めたという。

当日は工業部会の会員ら18人が参加した。最初に訪れたのは、「サイバードesignスタジオ」。「ロボットスーツHAL」の開発で知られるサイバードデザイン社がプロデューサーとしており、さまざまな技術が展示されている。



同時無制限のマルチタッチが可能なディスプレイ

当日は工業部会の会員ら18人が参加した。最初に訪れたのは、「サイバードesignスタジオ」。

技術に驚嘆の声が挙がった。参加者からは、その

◆TRYプロジェクトとは：・話題の場所から最新の高度技術まで、経営者のためになる様々な視察事業を企画している。

ていた。

その後、「サイエンス・スクエアつくば」を視察した。独立行政法人産業技術総合研究所(産総研)が行っている最先端の研究

設。

一行は、ヒューマノイドロボットなどの未来の技術を見学した。体験コーナーもあり、遠隔地と一体となる視



サイバードesignの「HAL」を体験する参加者

「登録制度」を開始

ミヨシ・ロジスティックス

現場の人手不足解消に

工業部会情報

人材派遣業、ミヨシ・ロジスティックス(相模原市緑区下九沢)は、働き手の都合やスキル、求人側となる企業をマッチングさせる「登録制度」を新たに始める。雇用創出につなげると同時に、地域の製造業な

どの人手不足解消につなげるのが狙いという。同制度は、未経験でも働きたい意欲がある人を対象に、まず人材登録をしてもらう。その後、ミヨシ・ロジスティックスの本社で面談。本人の職種や勤務時間帯、期間など、希望を聞く。対象となる職種は自動車部品のピッキング、エンジン組み立てといった工場内作業から内職、物流関係まで、計20種ほど。そこから、同社が企業側とのマッチングを行い、就業が決まる。就業前には、同社の資格保有者が講師となり、就業予定者にビジネスマナー研修などを実施。勤務が始まる。受け入れる企業に安心感を持ってもらうため、人材の「教育証明書」も発行する。(記事提供：かながわ経済新聞社)



分家松若流五十周年記念

松若流多恵

いっただい

演目

大和楽 江島生島

心燃えて…あなた

石川さゆりを綴る

特別出演

花柳 基

平成二十年芸術選奨
文部科学大臣賞受賞

六月七日(土) 午後四時開演

会場 相模原市民会館大ホール

問い合わせ 松若流舞踊研究所

TEL・FAX 〇四二一七五二一〇二三三

(火・木 午前十時～午後五時)